令和２年１月定例会会議録

（令和２年１月２３日）

八代市教育委員会

八代市教育委員会１月定例会会議録

【開 催 日】　令和２年１月２３日（木）

【場　　所】　八代市千丁支所２階　庁議室

【出 席 者】　北　岡　　博　教育長
冨　田　壽　人　教育委員
松　永　松　喜　教育委員
水　田　千　春　教育委員
奥　村　留美子　教育委員

【出席職員】　桑　田　謙　治　教育部長
松　岡　　猛　教育部次長
和久田　敬　史　教育部次長
機　　智三郎　教育政策課長
西　村　　裕　学校教育課長
有　馬　健　一　教育部首席審議員兼教育施設課長
小　山　弘　行　生涯学習課課長補佐
村　上　修　一　生涯学習課課長補佐兼社会教育係長
沖　村　　巧　教育サポートセンター所長
澤　井　光　郁　博物館未来の森ミュージアム副館長

【事 務 局】　坂　部　功　泰　教育政策課教育政策係長

【審議事項】　＜議案案件＞
①八市教委議第１号　八代市社会教育センター条例の一部改正について
＜協議案件＞
①報告第１号　八代市地域学校協働活動取組方針（概要）について

１．開会　（午後２時００分　開会）

２．教育長報告
北岡教育長　前回の会議から今回までに参加した行事や事業、委任された事項などの中で特に重要と思われるものについて報告

３．議題
〈市教委議第１号〉八代市社会教育センター条例の一部改正について

小山生涯学習課課長補佐　坂本地区の西部社会教育センターについては、平成１９年度から文化財の保管庫として利用されており、現状は、社会教育センターとしての利用は無いため、利用の状況との整合を図るために、施設の所管を市長部局の文化振興課へ移管することとしたもの。なお、地元の地域振興会が年に１回、グラウウンドゴルフ大会のためグラウンドを利用されているものについては、これまでどおり利用できるよう配慮している。

北岡教育長　多くの文化財が保管されているが、重さに耐えられるのか。重量で崩れたりするような心配はないか。

小山生涯学習課課長補佐　現状においては、旧校舎跡に重量のあるものを、体育館には民俗文化財のような軽いものを保管しているということである。再度、文化振興課にも話をしておきたい。

【議案第１号　承認】

〈報告第１号〉八代市地域学校協働活動取組方針（概要）について

村上生涯学習課課長補佐兼社会教育係長　資料により説明

水田教育委員　先生方の異動によって途切れない仕組みづくりが大事かと思う。校長先生によって学校の雰囲気が大きく変わることがあるので、そのようなときの対応を地域の方と先生方とでうまくやれるのか不安は感じる。先生方の負担や自治協議会の方が慣れるまでが大変かと感じた。

村上生涯学習課課長補佐兼社会教育係長　いくつかの学校から、特に小学校から話があっているが、学校の先生方が異動で入れ替わると、今まで培ってきたものが途切れることがあるので、地域に担当する人がいて、これまでの先生・地域とのやりとりの情報を持っていれば、相談もしやすいし、助言も受けられるので、そういう人をぜひつくって欲しいとのことである。

奥村教育委員　資料の中で、令和２年度に１つの協働本部を設置し、カバー率１００％とあるが、詳しい説明をお願いしたい。

村上生涯学習課課長補佐兼社会教育係長　国が作ったガイドラインでは１小学校で１本部というのが当初の考えだったが、全国的に動きが遅かったため、市が全てをカバーできれば１本部でもいいということになった。１学校に１本部となると多くの事務が発生し、学校側の負担になるため、その負担については、生涯学習課で担うということで１本部とした。

奥村教育委員　地域が慣れていくまでは、専門的なコーディネーターの活躍やコーディネーターの学習の機会などの支援ができる体制づくりをお願いしたい。私自身、東陽町の地域未来塾のお手伝いをしているが、関係の地域の方は子供たちの様子をよく知ってらっしゃる。地域に子供たちに声掛けする人、目を掛ける人がいることで、学校に行きたくない子の軽減につながるのではないかと思う。この事業が学力向上だけでなく不登校の問題にも貢献することを期待している。

水田教育委員　奥村委員の不登校に対する意見に賛成である。みんなで、地域と一体となって取り組むべき課題だと思う。

冨田教育委員　八代の方針として的を絞ってやった方がいいのではないかとも感じる。不登校が増えているのは、学校の問題というより家庭教育の問題ではないか。学校と社会が連携すれば、できるような気もするが、これまでも学校と地域を繋ぐという取り組みのため担当の職員は地域との接点を探すのに走り回っていた。そういう状況を作ってしまうと、元の木阿弥になるので、焦点を絞って協働活動をやった方がいいのではないかと感じる。

村上生涯学習課課長補佐兼社会教育係長　学校と地域の実情に沿ったやり方で、学校側へ押し付けとならないようなかたちで推進していきたいと考えている。文科省が示している先行事例の中には、地域と連携を行うことで先生たちの負担軽減につながり、残業が減ったという成功事例もある。本市でも学校支援活動は活発であるが、まだまだ先生方が担っている役割は大きいので、少しずつ役割を地域の方にお願いすることで、先生方が不登校対策等に力を入れられるようにシフトしていければと考えている。

奥村教育委員　各学校に地域コーディネーター、それをまとめる統括コーディネーターが３名ということで、予算の問題もあると思うが、時間をかけて、一人でも多くの子供が勉強がおもしろいと思え

るようになればと思う。

松永教育委員　　推進体制において、どの程度の予算を考えているのか。また、確保できているか。

和久田教育部次長　　明日が、来年度予算の内示の日となっている。現在、三中校区や東陽校区で実績を重ねつつあるので、それが全校区に広がっていけばいいなと財政サイドも理解してもらえれば、予算もついてくるかと思っている。

松永教育委員　　統括コーディネーターの３名についての実践状況はどうか。

和久田教育部次長　　統括コーディネーターについては、社会教育指導員に兼務をしてもらう考えである。

コミュニティースクールと地域学校協働を両輪みたいなかたちで、コミュニティースクールの学校評議員に地域コーディネーターが入って、学校のニーズを聞いていただき、これまで教頭先生が担っていた部分を地域コーディネーターに代わってもらうというイメージである。これにより地域行事や学校行事がスムーズに進められることを狙いとしており、まずはできるところから、進めていきたい。来年度以降の進捗状況については、ご報告させていただきたい。

松永教育委員　　素晴らしい計画なので、粘り強く取り組んでもらいたい。一斉にスタートさせるのは難しいので、できるところから手を付けて、将来的には１００％になるように進めてもらいたい。

北岡教育長　　予算の問題もあるので、まずは、できるところから始めないと進んでいかないと思っている。

地域コーディネーターの人材が大きなウエイトを占めるのではないかと考えている。学校、子供に対して理解のある方、地域との関係を構築されていて、行動力がある方がいらっしゃれば学校も助かるでしょうし、地域ともつながり、協力も得られると考えるので、そういう人材を確保することが大きな課題だと考える。

４．連絡事項　　学校教育課　八代型小中一貫連携教育実践発表会（四中校区）について

生涯学習課　成人式について

教育サポートセンター　年頭研修会について、教育論文等第２

回審査委員会について
事務局　　２月定例会日程確認（2/12　14：00～）

６.会議録署名委員の指名　　松永委員・奥村委員

７．閉会　　（午後３時１３分　閉会）

令和　　年　　月　　日

署名委員

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

記録者

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿